

Title	史學研究會報告；國史談話會報告；東洋史談話會報告；西洋史談話會報告； 日本西洋史學會大會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.25, No.4 (1952. 9) ,p.118(551)- 120(553)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0118

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

裨益するところ、すこぶる大なるものがある。よつて著者は文學博士の稱號をうける資格あるものと認める。

昭和二十六年十一月二十六日

主 査 委 員

- | | |
|----------------------|-------------|
| 應應義塾大學教授
國史 擔當 | 文學博士 松本芳夫 |
| 慶應義塾大學教授
經濟史 擔當 | 經濟學博士 野村兼太郎 |
| 慶應義塾大學教授
史學 概論 擔當 | 文學博士 間崎万里 |

史學研究會報告

第四〇一回例會 公開講演會

昭和二十六年十一月一七日午後一時 於一〇番教室

船名とその傳説

四世紀の日本

- | | |
|--------|--------|
| 松本 信廣氏 | 西岡 秀雄氏 |
|--------|--------|

第四〇二回例會

昭和二十六年十一月二十七日午後二時半 於二番教室

- | | |
|---------------------|--------|
| 文献を中心とした蝦夷文化の復原 | 清水 潤三氏 |
| ヨーロッパ文學のローマンチック主義運動 | 村岡 信子君 |
| 一向一揆の組織と構造 | 高輪 淳一君 |
| バリンントン教授の研究を中心とした | |

第四〇三回例會

昭和二十六年十二月一五日午後一時 於二番教室

サミエルアダムス

山根 淑子君

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ランケ史學の根底 | 神山 四郎氏 |
| イギリス十七世紀の一展開 | 中山 正明君 |
| シナに於ける演劇の基本形式の
形成に至る過程について | 橋本 光男君 |

第四〇四回例會

昭和二十七年一月二三日午後二時半 於六番教室

- | | |
|-----------------------|--------|
| F・V・ハルデンベルクの政治思想とその構造 | 本郷廣太郎氏 |
| リンカーンの偉大さについて | 高羅 駿治君 |
| 大石良雄の人間性 | 木部 昭吉君 |

第四〇五回例會

今宮教授學位受領祝賀會・卒業生送別會

昭和二十七年二月二日午後一時 於一〇番教室

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 奴隸制度及び南北戦争に對するリンカーンの
考へ方に就いての歴史的考察 | 高羅 駿治君 |
| 作品傾向より見たアメリカ映畫史 | 藤原 侃君 |
| フランス革命とポーランド問題 | 丸山 繁郎君 |
| 中世北歐都市とその經濟 | 片田 惠己君 |
| オリヴァア cromwell の影像 | |

—清教徒革命を中心とする—

十九世紀ドイツに於ける政治史家に就て

英國憲法史に於ける中世的意義

米國に於けるピューリタン植民地の建設と

その政治思想及び政策

プラトン及びアリストテレスの社會經濟思想

英國浪漫主義思潮

十八世紀ヨーロッパに於ける藝術思想

アメリカジャナーナリズムの先驅者達

一七八三年より佛國革命に至る迄の

ピットの外交政策

大石良雄私觀

本願寺と紀州雜賀勢に就いて

—一向一揆に關する一考察—

平將門の亂に關する一考察

加賀一向一だの一考察

曇鸞大師の淨土教

雜劇と能樂

第四〇六回例會 新入生觀迎會

昭和二十七年五月七日午後三時 於六番教室

韓子について

中山 正明君

大室 正明君

田中 鷹君

坂本 滋君

宮崎 武三君

村岡 信子君

堀田 稔君

平島益次郎君

今關 勝成君

木部 昭吉君

佐々木 眞君

雨宮 泰君

高輪 淳一君

麻布 弘海君

橋本 光男君

松本 芳夫氏

松本 芳夫氏

第四〇七回例會

昭和二十七年七月三日午後三時 於十番教室

日本書紀の紀年について

中世大學の形成

—Studium Generale を中心として—

森脇 龍也君

國史談話會報告

第四五回例會

昭和二十六年十二月一日午後一時 於六番教室

福澤諭吉の獨立觀

浴 考

カーメン・E・ブラッカー氏

武田 勝藏氏

第四六回例會

昭和二十七年五月二九日午後五時半 於三田豐岡會館

今宮教授學位受領祝賀、西岡秀雄氏ハーバード大學國際ゼミナール出席送行、卒業生送別、新入生觀迎を兼ねて懇親會を催す。

第四七回例會

昭和二十七年六月二八日午後二時半 於中等部

郷里制について

村山 光一氏

スライド考古學遺物 映畫「上代彫刻」及び「湖畔の貝殻山」

(中等部製作)を觀る

東洋史談話會報告

昭和二十七年一月二四日 於山食教職員食堂

「坐をめぐる諸問題」

伊藤 清司氏

中國古代の坐を中心として、廣く東亞各地のシャーマニズムの本質について追求された。

西洋史學會報告

五月十日午後一時より 於五番教室

ランケの歴史認識をめぐつて

神山 四郎氏

第十四世紀初頭の英國憲政史上の一問題

森岡敬一郎氏

尙、六月四日、十四日、七月七日の三回に恆り、第三回日本西洋史學會大會の研究會が行はれた。

日本西洋史學會大會報告

日本西洋史學會第三回大會は五月二十三・四の兩日本塾三十二番教室に於いて開催せられた。二十三日午前、午後、二十四日午後、に恆つては研究發表が、又二十四日午後には

ルイテルと宗教改革運動

山中 謙二

ギリシヤ史の一隅に立ちて

原 隨園

兩氏の公開講演が二十三日夕刻より學生食堂に於いて懇親會が行

はれ、夫々多數の參會者を得た。

研究發表會、並びに演題は次の通り(敬稱畧、發表順)

ランケ史觀の克服をめぐつて

神山 四郎(慶大)

ランケのオプティミズムについて

村岡 哲(山形大)

ウルカギナ王の圓錐碑文Bの性格について

中原與茂九郎(京大)

前九・八世紀のキリキア

杉 勇(教育大)

ギリシヤ文化生成の問題

村田數之亮(阪大)

プルタークの政治訓について

水川 溫二(名大)

ヨーク條令の一考察

森岡敬一郎(慶大)

古代クリスト教の戰爭觀

秀村 欣二(東大)

プルデンティウスと異教

長友榮三郎(宮崎大)

古代末期に於けるガリア社會の一考察

増田 四郎(一橋大)

カトリーの農耕誌を中心として

祇園寺信彦(東北大)

中世に於ける奴隸制度

尾鍋 輝彦(京大)

中世に於ける自由農民について

田中 正義(神大)

中世に於ける大學の自由

島田雄次郎(東大)

西洋中世都市の自治機構

今來 陸郎(九大)

中世末期に於ける國家權力の形成について

堀米 庸三(北大)

ブラウンシュワイヒ公の宣言

十河 佑貞(早大)

バブーフの思想

豊田 堯(京大)

パリーコムミュエヌ内亂の性格

讚井 鐵男(廣大)